

地域住民の防災力向上 ～平時からの取り組み～

近年、地震や台風、記録的な豪雨により、全国各地で甚大な被害が発生しています。耐震や治水対策といったハード対策は行政の最も重要な施策の一つですが、一旦大災害が発生すると、行政ができることには限界があり、自助と共助が非常に重要です。この研修では、地域住民の防災力向上のために、平時から行政がどのような取組を進めていくか、防災教育も含めて考えます。

研修の ポイント

- 地域コミュニティにおける防災活動の支援の仕方について考える。
- 防災教育の必要性や地区防災計画の活用について理解を深める。
- 講義、演習を通して、平時からできる減災活動について考え、その手法を学ぶ。

開催要領

日 程

令和3年5月12日(水)～5月14日(金)(3日間)

場 所

全国市町村国際文化研修所 JR京都駅より湖西線約15分 唐崎駅下車徒歩約3分

対 象

市区町村等の消防・防災に関わる職員

3日間全日程をご受講いただける方を対象とします。途中退所や一時帰庁はできませんのでご注意ください。

募集人数

40人 募集人数を大幅に超えた場合は、申込期限後に抽選等をさせていただきますので、予めご了承ください。
なお、受講者の決定については、他の研修、セミナーの申込み・受講の有無にかかわらず、本研修単独で行います。

宿 泊

研修所宿泊棟(宿泊型研修) ※外泊はできません。

経 費

10,200円 左記金額は、研修、宿泊、食事(朝食2回、昼食2回、夕食2回)、資料等にかかる費用です。
なお、事前準備・事前学習及び最終日の昼食にかかる費用は含まれておりません。

申込期限

令和3年3月26日(金)まで

※新型コロナウイルス感染症の影響により、申込期限内での申込みが難しい等がございましたら、ご遠慮なくご相談ください。
※申込後、4月当初の人事異動に伴う受講者の変更については柔軟に対応いたします。

申込方法

JIAMホームページ内「研修Web申込みフォーム」からお申し込みください。

「Web申込み」が難しい場合は、受講申込書によりFAXでも受け付けています。

※受講申込書はJIAMホームページの書類様式集(<https://www.jiam.jp/doc/>)に掲載しております。

受講決定

受講の可否については、通常、開講日の約1か月前までに通知をお送りしておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、2～3週間前までの送付となる場合もございますので、ご了承ください。
経費納入方法等の手続きについては、受講決定通知書によりお知らせします。

事前課題

研修受講にあたって、事前課題に取り組んでいただく予定です。詳細は受講決定通知書送付時にお知らせします。

問い合わせ先

公益財団法人 全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所(JIAM) 教務部

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎二丁目13番1号 TEL.077-578-5932 FAX.077-578-5906

[e-mail] kenshu@jiam.jp [ホームページ] <https://www.jiam.jp>

令和3年

5月

12日(水)

11:00~
入寮受付・昼食

12:30~
開講・オリエンテーション

13:00~15:35
講義 地域における防災体制の構築に向けて
～災害のリスクコミュニケーション戦略～

京都大学防災研究所 巨大災害研究センター 教授 矢守 克也 氏

自然災害から命を守るためには、住民自らが地域の危険箇所を認識し、平時から災害に対する心構えを持つことが重要です。

本研修の基調講義として、住民主導での防災体制構築を促すための、住民と行政との効果的なリスクコミュニケーションのあり方について、各地での実践事例を交えながらお話しいただきます。

15:50~17:00

事例紹介 地域が一体となって取り組む超先進的な防災活動
～住民の自治力を引き出す仙台市の取り組み～

・ 仙台市危機管理局減災推進課

・ 仙台八木山防災連絡会助け合い部会・部会長 谷口 和也 氏

仙台市における「仙台市地域防災リーダー(SBL)養成・支援」の取り組みと、仙台市八木山地区の仙台八木山防災連絡会によるユニークな取り組みについてご紹介いただきます。この仙台八木山防災連絡会は、地域の連合町内会、地区防災協会、小中学校、社会福祉協議会だけでなく、テレビ局、遊園地、個人病院などの私企業、交番や消防署などの公的機関46もの団体が参加し、それぞれの枠組みを超えた自由な地域防災活動を行っています。そこには従来の地域防災活動のイメージを超えた、住民自治の新しい潮流を垣間見ることができます。

17:30~

交流会 夕食を兼ねて、ともに学ぶ受講者同士の親睦(情報交換・交流)を深めます。

9:00~12:00

演習 ゲーム型教材クロスロードを活用した防災意識の向上

神戸クロスロード研究会

神戸市職員の震災対応についての研究から生まれたゲーム型教材「クロスロード」をご紹介いただきます。演習ではゲームの活用方法を学びながら、災害対応時に迫られる急な判断を疑似体験したり、グループで意見交換を行うことにより、日頃からの災害時を想定した取組の重要性について考えます。

13:00~17:00

演習 「災害図上訓練DIG」で防災対策

一般財団法人消防防災科学センター研究開発部主任研究員 小松 幸夫 氏

地域の特徴や課題を地図から読み取り、起こりうる災害時の被害をイメージしながら、いざというときの対応や事前対策を考える「災害図上訓練DIG」について、実際に体験し、その手法を学びます。

9:25~12:00

講義 地域からはじめる「防災“も”まちづくり」のすすめ方

東京大学生産技術研究所 教授 加藤 孝明 氏

地域の防災力向上のためには、バランスのとれた自助・共助・公助の実現が重要です。地域から進める「防災まちづくり」のあり方についてお話しいただきます。

12:00~12:30

ふりかえり、研修アンケート記入、閉講

令和2年度度研修受講者の声 ～研修アンケートから～

- 住民が自主的に避難行動に移すために、いかにハードルを下げて防災に一步踏み込んでもらうかということについて、講義ではなく、体を動かして体験してもらうやり方が有効だと感じた。こうした活動が地域で自主的に行われるよう支援体制を整えていきたい。
- 市民の方々にどうやって避難行動を取ってもらうかという課題に対する解決策を見出すことが出来た。今後危機管理室と消防の連携を強化し、課題解決に取り組むたいと考えます。